様式２

学校評価シート（自己評価）

青徳幼稚園

１、園の教育目標

「ひとりひとりの個性を大切にし健康的で明るく人に思いやり、感謝の心をもてる子ども」を理念とし学年毎に教育目標を持ち、園生活が充実したものになるよう保育者が一丸となって務める

年長…集団の中で自分で考えたり、友だちと協力したりして、行動力、思考力を身に付ける
年中…クラスの中でひとり一人が自己を発揮し、互いの良さを認め合いながら伸び伸びと活動する
年少…生活の流れや決まりに慣れ、身の周りのことを自分で行なえるようにし、あそびを通して友だちと一緒にすることを喜ぶ
満３歳…基本的な生活習慣を身に付け、あそびや活動を通して保育者や友だちとの関わりを広げていく

２、具体的な目標や計画

評価項目にそって達成されているか振り返り、改善点がある場合は具体的に何をどうするかを考え、保育内容を明確にして取り組んでいく

３、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに各学年、ねらいに沿って月案、週案を立てる	B	活動のねらい、内容について各学年、成長度合いを見ながら月案と週案を計画し指導していき、週案は全学年で共通理解している。週案変更があった時は、他学年とも共有できるようにする。
基本的生活習慣を自分で行なえるよう指導していき、定着できるようにする	A	園全体で、身支度の仕方や流れを共有し子どもたちに伝えていき、できることは増えていると思う。個人差がある為、ひとりひとりが自分で出来るようになる為に、今後も個人への対応をしていく必要がある
行事に向けて、みんなと一緒に練習し、頑張る気持ちとみんなで行う事の楽しさを感じられる経験をする。最後までやり抜く力が身につけられるようにする	A	どの学年もできるようになるために練習に励み、集団で行うことを楽しみながら、意欲をもって取り組む姿勢がみられた。保育者は得意、不得意がある中で、その子なりの頑張りを認めていくことを心がけた。今後も参加意識への低い子への声掛けを工夫していく
避難訓練(安全、防犯)などで、子どもたちが避難の仕方や防災に関しての意識や習慣が身に着くように努める 保育者は常に子どもの人数を把握する	B	避難訓練を地震、火災、水害など年に数回行った。不審者対策はマニュアルを作り、職員間で共通理解している。欠席確認も朝の時点で(バス、徒歩通園)ともに連絡のないクラス時間以外(朝や帰りなど全員揃っていない時)の避難訓練が行えていない。
絵本や紙芝居などを通して物語や言葉あそびに親しむ	A	帰りの会などに時間を作り、読んであげる機会をふやした。気になる事柄について、全園児で絵本を通して伝えることができた

具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結　果	理　　由
B	基本的な生活習慣を身に付けることで安心して幼稚園で過ごし、自分を表現できるようになる事を目標に保育を行ってきたが、個人差もあり、個々にあった声掛け、援助の工夫を考えていくことが大切だと思った。行事を通して、活動に参加する意欲、姿勢はどの学年も成長と共についてきていると思われるので、今後も子どもたちのやる気を出せるような言葉かけを今後も心がけていきたい

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

５、今後取り組むべき課題

課　題	具体的な取り組み方法
鍵盤ハーモニカとハーモニカが上達する	鍵盤ハーモニカは、年少の３学期に購入方法のお知らせをし、年中時からすぐ始められるようにする。頑張りカードを基に個人指導を中心に週案の中にも取り入れていく。 ハーモニカは、うさぎ組、白組から学年で集まっての指導と、個人指導を日常の中に多く取り入れ、音楽発表会で発表できるようにする
行事の進め方を考えて、より良い保育をしていく	今年度の作品展やお買い物ごっこなど、例年と同じやり方ではなく、工夫したりアイディアを出し合って決められた部分もあるので、来年度も行事の進め方については、職員間で話し合いをして進めていく。マラソン大会への取り組み方を来年度は年度初めから決めて、取り組んでいく
全職員間で共通理解をしてすすめていく	幼稚園の決まりや流れを、年度初めに職員会で打ち合わせをし確認しているが、引き続き共通理解が出来るようにしていく 保育の中で気なる事や、安全面での報告等、子どもの登園方法の変更など朝礼や終礼で伝えているが、来年度も記録に残していく 行事についても担当した職員が責任をもってノートに残していく